

24年度保険料引上げに際した、支部評議会からの意見

(各都道府県支部に事業主・加入者・学識経験者から構成される評議会が設置されている)

中小企業・小規模企業への影響を懸念する意見

- これ以上の保険料率の引き上げは、事業者が破綻する状態になる。10%が限界に達していることを認識してほしい。これ以上は事業者として負担は絶対できない。
- 不況下で企業の利益率は下がっている中、これ以上の負担増は事業主が従業員の雇止めを始めることにつながる。
- 保険料率が0.5%引き上げになると、給与を0.5%引き下げて雇うか、非正規雇用に移すことになる。中小企業や加入者に係る負担が増えるばかりで、まさに中小企業いじめである。
- 多くの中小企業の現状は厳しく、賃上げもままならず、賞与についても寸志程度の支給にとどまっている。加えて保険料を上げるということについては、説明のしようもなく、経営者にとっては大変な事態である。
- 保険料の引き上げについて、一体どこまで引き上げられるか、ずるずると引き上がることでとても耐えられないし、実態からいくと既に定期昇給分を飲み込むような状態になっていることはとても認められない。
- 保険料率が際限なく上昇し続ける状況は、将来の見通しができず、加入者にとって不安な状況である。中小零細企業にとっては存続に関わる深刻な問題であり、欧州問題等が大きく押し掛かっている中での保険料率の引上げの更なる負担増は耐えられない。
- 先行きが見えない状況での3年連続、10%を超える大幅な引き上げは、事業主・加入者にとって負担が大きすぎる。やむを得ない状況であることは理解できるが、保険料率の引き上げには承諾できない。

国や政府への対応についての意見

- 政府から何の対策や方向性も示されないまま、保険料率だけが10%に引き上げられるのは、納得のできるものではない。今の政府と一方的に自制を強いるような健康保険制度に対する不信感に繋がってきている。
- 政府が何もやらないツケを、協会けんぽや中小零細企業に押し付けている感じがする。